

音楽を愛するお客様のお陰で成長させて頂いております

音楽とオーディオの楽しみ方を自分流のアイデンティティーとして確立された人達に支えられて、ローゼンクランツ製品は成長して参りました。

お客様宅へのクリニックやセッティングという形で、音の調整能力を高める機会や場を与えて下さる事が、音楽を愛する人々の望む「これぞ音楽！」という核心を把握するのにどれだけ役立っているのか計り知れません。

それが新しいアイデアを生み、次世代の製品に反映され、オーディオファイルの皆様に恩返しができるのです。このようにプラスの連鎖として働いているのが、ローゼンクランツの魅力ある音楽性の秘密でありメカニズムなのです。

カイザーサウンドという会社は今年で創業 30 年目になります。メーカーとしての製品開発力とクリニックという形で直接消費者宅を訪問し、セッティングを行なうトップランナーとしての能力を併せ持つオーディオ界では極めて稀な存在です。一日一日ミリ単位で地道に積み上げて来た根気と努力によって、オーディオセッティング技術の腕を上げる事が出来たのであります。

他に類を見ない”カイザーサウンド”独自のセッティング技術

代表的なグッズとしては「音の良し悪しには周期性がある」と発表した”カイザーゲージ”が上げられます。その他にもカイザーサウンドには数々の修羅場をくぐって来て得た独自のノウハウが盛り沢山です。



それを実証するまたとない機会が、本会場のような環境でありシチュエーションであります。その最大のポイントは壁や柱の反射を考慮に入れたカイザー流セッティングによって、部屋の隅々にまで音が響き渡るようにしてある点です。

それは実際の演奏現場で聞く自然で生きた音に近くなるように、2本のスピーカーを絶妙にセットしてあるからです。この技術こそがカイザーサウンドの真骨頂であります。

ハイエンドショー開催中は他にも沢山のブースがありますので、今回は色々と比較試聴して頂く絶好の機会かと存じます。皆様の貴重なご意見ご感想をお待ちし申し上げておりますと共に、どんな内容のご相談でも遠慮なくお申し付け下さい。

本格的にスピーカーを手掛けるようになった理由

カイザーサウンドでは手持ちの機器を買い換える事無く、出来るだけ良い音にすべく縁の下の力持ちとして頑張って参りました。その一方で現実を冷静に振り返ってみますと、現代のハイエンドと呼ばれるスピーカーは電氣的燃費が極めて悪く、まともに鳴らすにはアンプやケーブル等に莫大なお金が掛かってしまい、プロでさえハンドリングに窮するのが実情です。

「鳴りたくない」と駄々をこねるようなスピーカーではなく、生まれながらに感性豊かで「歌うのが得意なスピーカー」を用いてシステムを構築した方が、コスト面でも、また最終的にシステムから出てくる感動もより大きい訳です。

そんな能率の高いスピーカーならば僅か 3 ワットもあれば朗々と鳴ると同時に、ケーブルにおいても大電流を流す必要も無く、安くて細い物でも充分に良い音がするものです。

カイザーサウンドでは 15 年前に次のような三つの格言を作りました。

鳴るように出来ている物は鳴るようにしてやれば鳴ります

鳴るように出来ている物を鳴らないようにしているから鳴らない

鳴らないようにしか出来ていない物は鳴らそうとしても鳴らない

この見極めとアクションを起こす時が来たかと判断したのが、本格的スピーカーを手掛けるようになった経緯であります。だと思っていたら、多くは だったというのが正直な結論であります。今こそオーディオの大改革の時ではないでしょうか。

Feastrex の Unit をベースにした手漉き和紙によるフルレンジスピーカー

昨年の春に最高級手作りフルレンジスピーカーのカーディナルシリーズの一号機「ミュージカリティー」を発表しました。続くその秋には世界でも前例が無いと思われる、フルレンジにパッシブユニットをプラスした「マエストロ」を第二弾として発表しました。

同じ音源軸上に、コーン、ホーン、ドームと 3 つの振動板を持つ、「トライモードユニット」と名づけられた 5 インチのフルレンジは精緻を極め、音楽の魂を見事に描き切ります。



「ミュージックリファレンス」という名のコンパクトミュージックモニター



そして今回正式に一般公開するのがミュージックリファレンスというコンパクトミュージックモニターです。これもセッティング技術を通してオーディオへの理解力が一層深まった事により実現した製品であります。

特にエンクロージャーにはローゼンランツならではのノウハウが満載です。ユニットは「Hertz」というイタリアの新進気鋭メーカーが開発したカーオーディオ用の物を使っております。

朝顔型をした独特の V 字コーンにはセンタードームキャップが無く、力強い低音から魅惑的な中高音までを分断感無く極めてスムーズに鳴らせるのが特徴であります。

この V 字コーンでしか出ない独特の音色は、「男性の中にある女性性」、また、「女性の中にある男性性」までも表現してしまうのです。それは従来のウーハーユニットでは出ない音であり、ツイーターユニットからも決して出ないその間の音なのです。更なる魅力を挙げますと、速いリズムのパーカッション群のビートと炸裂せんばかりの管楽器のリアリティーであります。

ローゼンランツでは 2 年前までの約 3 年間、製品開発用のリファレンスモニターとして B&W805 シグネチャーを使っておりました。開発テーマは、その 805 シグネチャーの「価格は半分」、「性能は 3 倍」を目標に掲げて取り組んだのがこのミュージックリファレンスなのです。

カイザー理論満載のスピーカースタンド (ST-MR)

3.2 ミリの分厚い鉄板で出来た支柱部分の曲げ加工の部分についてお話しします。正面の幅が「カイザーゲージ」の音楽の基本の長さを表す 52.5 ミリ、次がその 4/5 の 42 ミリ、そして最後の開放端は 6/5 とちょっと長めになっています。

スピーカーから発する音楽振動が、常にこの 5 : 4 : 6 の美しい三和音でリズム構成するように設計しており、振動の幅がホップ、ステップ、ジャンプした場合、凝縮と開放を伴いながらエネルギーが加速される仕組みになっています。

だから天板に載せられるサイズのスピーカーでありさえすれば、汎用スタンドとしてお奨めします。貴方のスピーカーが生まれ変わったように生き生きと鳴り始めるのには驚かれるでしょう。



汎用 CD スタビライザー (STB-5)

CEC のベルトドライブ式 CD プレーヤーのスタビライザーは、一部のマニアの間で絶賛されロングセラーを続けております。そんな中で一般の CD プレーヤーにも使えるタイプのスタビライザー開発希望の声が多くなったこともあり、製品化をかなり前から考えていました。

しかしながら、新しい閃きやアイデアが思い浮かばず時間が過ぎて行くばかりでした。機が熟したというのでしょうか、デジタルケーブルの”Kaiser Sound”の完成と同時にハッキリとした製品の姿が見えたのです。

それは光の反射パターンの平滑化と回転の滑らかさを手に入れる事でした。私の車に実験的に施しているタイヤの加速度組み立ての技術も大いに参考にし、5 個の菱形をちょっと不均一なパターンで手裏剣の形のようにくり抜いた独創的な製品が誕生したのです。その音の素晴らしさがネット上で口コミで広がり、発売と同時に大ヒット商品になりました。



伊万里焼で出来た CD 音質改善器”瀬兵音鏡”(せひょうおんきょう)

出口のスピーカーのラインナップが充実して行くのと同時進行で入り口の音質グレードアップ作戦を現在展開中であります。CD スタビライザーに続いて、直径 10.5 センチ(カイザー寸法)の陶板の上にディスクを 1~2 分載せておくだけで音が良くなるという、”CD 音質改善器”を完成させました。

伊万里の瀬兵窯という窯元の音楽好きの陶芸家から話が持ち込まれ、私の指揮の元にカイザーサウンドの音楽性と合体させ、一刀彫りで龍を描いた芸術性に富んだ青磁の焼き物であります。

使われている原料は”陶石のダイヤモンド”と呼ばれる高価で貴重な物ですが、触媒無しの単石で磁器が作れる世界で唯一の陶石であります。その効能はというと、花器等に使うと花の寿命が倍以上に延びたり、また、冷蔵庫に入れておくと食品が痛み難くもなります。



さらに、部屋に置いておくだけで脱臭効果もあるという不思議なエネルギーを秘めているのです。また、携帯電話に使うとハッキリと声が聞き取れるようになるという報告等も寄せられています。要約すると生き物にとって良い環境を作り出す訳であります。

CD や LP の音質改善効果は音楽の表現力が増したり歌が上手くなったように聞こえます。電気特性的にベアリングを取った厳選パーツで組まれた、何百万円もするアンプに勝るとも劣らない音質向上が得られると言っても決してオーバーではありません。

置くだけで音が良くなるアクセサリと言うと、眉唾のように感じるかもしれませんが、既に静電気除去機能を謳って大ヒットしている物も存在します。その音質変化は汚れや曇りが取れたようなスッキリ爽やか系であります。

一方、音を写す鏡として開発した”瀬兵音鏡”は音楽のエキスを抽出し、感動値が満る方向になり、アーティストに近く、人肌の温度を感じる音になります。これぞローゼンクランツサウンド！、是非とも聴き比べて頂きたいと思えます。

インシュレーター之王様ローゼンクランツ

ワンピースタイプと歯と歯茎構造のハイブリッド形式であるPB-COREは、大変使い勝手が良くコストパフォーマンスに優れたインシュレーターです。

音にキレが増し、音楽に生命が吹き込まれます。

数あるローゼンクランツインシュレーターの中でも一押しのアイテムです。



スパイク受け専用インシュレーター / Point Basic

材料に使っているエコプラスというシリコン入り真鍮は粘硬く、スパイク受け専用インシュレーターとして打ってつけです。スパイクの特質を考えて専用設計された物ですから、単位面積当たりの瞬間振動処理能力には大変優れています。

Basicの評判については今更説明の必要が無いほど語り尽くされた感があり、累計販売数と音の実力ではピカーです。カイザーサウンドの水平、垂直共に物性の響きの方向性を揃える技術は世界唯一のもので、他の物から履かせ換えると、詰まった音から一気に音楽が流れ始めるのはその必然の設計形状が成すものです。



カイザーゲージの思想を注入したケーブル / Basic1

カイザーゲージの思想をそのまま具現化したケーブルとして有名なBasic1は、珍しくも信号ケーブルとスピーカーケーブルの共用設計であります。

52.5ミリを音の良い長さの基本長とするカイザーゲージですが、Basic1は素線の段階からその1/100の直径0.525ミリのオリジナルで引き出した三菱電線製であります。

もう一つ音を構成する重要な要素の一つに燃りピッチがあります。これはエネルギー伝送に於ける加速と失速に大いに関係します。その周期までも52.5ミリにしてあるのです。

カイザーサウンドは方向性の権威のとして有名ですが、工程毎にドラムを巻き戻して、絶縁材、偏組掛け、シース掛けを行なっている世界で唯一のケーブルであります。更に細かい部分ではS/Nと音抜けに係る紙テープの裏表まで指定し管理されています。



このBasic1をスピーカーに使って頂くだけで、全ての音楽性その他の機器との間に存在するバランスを取る事が出来る魔法のようなケーブルです。

音の良い製品を作るには設計が秀でていなければなりません。ローゼンクランツは手作りですのでコストダウンには限界があります。それを量産品でも何とかしたい、そして、「生きる喜びを感じて欲しい」と願って誕生したのが「Music Spiritブランド」です。そのお客様に支えられて完成した記念すべき1号機がBasic1であります。